

ミナトザトウムシ

Hologagrella minatoi

ザトウムシ目
マザトウムシ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長♂ 5.2mm、♀ 3.4mm。♂の歩脚は非常に細長い(第1～4歩脚長: ♂ 48.0、91.8、46.6、64.7mm、♀ 16.5、35.1、16.8、21.2mm)。♂の体の背面は暗赤褐色ないし黒褐色で、腹部の前方両側に丸い白色斑がある。♀は♂より小型、やや淡色で歩脚が短い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

基準産地は母島の広葉樹林で、小川沿いの石の上で採集されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1973年に採集された標本に基づく原記載以来、生存が確認されていない。天敵の捕食圧については不明である。生息範囲は狭いものと推測されるので、生息地における樹林の改変などは本種の生存にとって十分脅威となりうると考えられる。

【関連文献】

Suzuki, S., 1974; 鶴崎展巨, 2006.

(執筆: 小野展嗣)

No image

ムニンザトウムシ

Verpulus boninensis

ザトウムシ目
マザトウムシ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長♂ 2.7～3.0mm、♀ 3.0～4.4mm。歩脚は細長い(第1～4歩脚長: ♂ 40.6、62.0、40.4、51.1mm、♀ 46.8、70.1、35.6、49.0mm)。♂の背面は淡黄色で、丸みを帯びた黄褐色の顆粒で覆われ、腹部の後端はややとがる。♀は♂より大型で、腹部の幅が広く、後端は丸く、中央の暗色部が♂より大きい。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

基準産地は母島の北部であるが、生息環境の詳細は不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1977年に採集された標本に基づく原記載以来、生存が確認されていない。天敵の捕食圧については不明である。生息範囲は狭いものと推測されるので、生息地における樹林の改変などは本種の生存にとって十分脅威となりうると考えられる。

【関連文献】

Suzuki, S., 1978; 鶴崎展巨, 2006.

(執筆: 小野展嗣)

No image

ムニンセグロザトウムシ

Verpulus similis

ザトウムシ目
マザトウムシ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長♀ 4.4mm。歩脚は細長い(第1～4歩脚長: 32.5、62.5、33.0、44.9mm)。背面は一樣に暗褐色で、微細な顆粒は小歯状で白色。腹部の前方と後方の両側に白色斑がある。ムニンザトウムシに近縁であるが、背面の顆粒、歩脚基節側縁の小突起列および眼の形状で区別できる。♂は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

基準産地は母島の北部である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1977年に採集された標本に基づく原記載以来、生存が確認されていない。天敵の捕食圧については不明である。生息範囲は狭いものと推測されるので、生息地における樹林の改変などは本種の生存にとって十分脅威となりうると考えられる。

【関連文献】

Suzuki, S., 1978; 鶴崎展巨, 2006.

(執筆: 小野展嗣)

No image

テナガカニムシ

Metagoniochernes tomiyamai

カニムシ目

ヤドリカニムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

DD

【形態・生態】

体長 4.5 ～ 6.0mm。体は硬化し比較的幅広い。♀は全体に淡褐色を呈し、触肢は淡赤褐色で、歩脚は黄褐色。♂はやや淡色で、触肢は濃い灰色。背甲は台形で前縁は丸みを帯び、2眼を有する。♂の触肢が非常に細長く、体長の 2.5 倍以上の長さがあるので（♀では 1.5 倍程度）、他種との区別は容易である。肉食性で、昆虫などの小型節足動物を待ち伏せし、鉗状になった触肢の先端で捕らえて食べる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

海岸から台地に至る斜面に生育するタコノキの上で見られ、葉の基部付近の葉と葉の間にできた隙間に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

タコノキの上でのみ見つかっているので、生存はタコノキにかかっていると見えるが、今のところ人為的影響およびグリーンアノールなど外来の捕食者の影響はほとんどないと考えられる。

【関連文献】

Sato, H., 1991; 青木淳一, 2004.

(執筆: 小野展嗣)



© 尾園 暁

サワダムシ

Orientzomus sawadai

ヤイトムシ目

ヤイトムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

【形態・生態】

体長 4 ～ 6mm。体は全体に褐色ないし灰褐色で比較的柔らかい。前体（頭胸部）は縦長で、背甲前縁の中央部は前方にとがる。触肢および第 3 付属肢は淡赤褐色、他の歩脚は暗緑褐色で、先端よりの各節はより淡い。♂の尾節は円盤状。小笠原諸島では今のところ唯一のヤイトムシ類である。夜行性で昼間は土壤中に隠れ、夜間歩き回って小型の節足動物を捕食する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林内のやや湿った土壌中および地下にできた間隙や洞窟内に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

乾燥にきわめて弱く、暗湿な場所を好む。母島では人家周辺でも見られるが、父島では近年まったく見られなくなった。オオヒキガエルの捕食は脅威となり得る。

【関連文献】

Sekiguchi, K. & T. Yamasaki, 1972; Reddell, J. R. & J. C. Cokendolpher, 1995.

(執筆: 小野展嗣)



イオウジマケシグモ

Nippononeta masatakana

クモ目

サラグモ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 1.3 ～ 1.7mm。背甲は黄褐色で、両側縁は黒く縁取られる。中窩を有し、頸溝は不明瞭。腹部背面は一樣に黄褐色。上顎の前牙堤に 4 歯、後牙堤に 5 歯を備える。歩脚は細長く、淡黄褐色である。外雌器は縦長で特異な形をしており先端が幅広い。♂の触肢杯葉は単純で、脛節背面先端部は幅広く硬化し特異な形状を呈する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林のやや湿った林床に生息するものと考えられる。樹林の地表や下草の根元にシート網を張るが、小型なため網は見つけにくく、通常はシフティング法や地表を徘徊する個体の目撃によって確認される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

サラグモ科の他の種と比べ個体数が少ないので、生息状況に注意を要する。

【関連文献】

Ono, H. & H. Saito, 2001; 小野展嗣 (編), 2009.

所蔵: 国立科学博物館

(執筆: 小野展嗣)



オガサワラケシグモ

Meioneta boninensis

クモ目
サラグモ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 1.7 ~ 1.8mm。背甲は黄褐色で、中窩および頸溝を有し、頭部後方に五角形の黒斑がある。腹部背面の前縁および後端は濃い灰色で、その他は白色。上顎の前・後牙堤に 4 歯を備える。歩脚は黄褐色である。外雌器は幅と長さは同長で、垂体は比較的小さい。♂の触肢杯葉基部に凹みを伴った隆起がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林の落ち葉の間や岩の割れ目などにシート網を張るものと考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1982 年に新種記載されて以来確実な記録がなく、最近の調査でもまったく採集されない。土壤環境の微変化、餌昆虫（トビムシ、ササラダニ、小型双翅類など）の減少、他の小型クモ類との競合、両生類、爬虫類の幼体による捕食などの原因が考えられる。

【関連文献】

Saito, H., 1982; 小野展嗣（編）, 2009.

（執筆者：小野展嗣）

No image

サダヨリケシグモ

Meioneta ignorata

クモ目
サラグモ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 1.7mm。背甲は黄褐色で、中窩および頸溝を有する。腹部背面は濃い灰色で中央部に大きい白色部がある。歩脚は黄色である。外雌器は横長で、垂体は顕著。♂の触肢杯葉は単純で基部に隆起がない。オガサワラケシグモと酷似するので、同定には♀♂の生殖器の比較を要する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林の落ち葉の間や岩の割れ目などにシート網を張るものと考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

新種記載された 1982 年ごろは各所に生息していたものと推測されるが、それ以来確実な記録がなく、最近の調査ではまったく発見されない。個体数の減少要因としては、土壤環境の微変化、餌昆虫（トビムシ、ササラダニ、小型双翅類など）の減少、他の小型クモ類との競合、両生類、爬虫類の幼体による捕食などが考えられる。

【関連文献】

Saito, H., 1982; 小野展嗣（編）, 2009.

（執筆者：小野展嗣）

No image

オガサワラアシナガグモ

Tetragnatha boninensis

クモ目
アシナガグモ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 4 ~ 6mm。上顎および歩脚が長いので、体長以上に大きく見える。前体（頭胸部）は細長く黄褐色、後体（腹部）は本属としてはずんぐりしていて、側面から見ると中央部が高く盛り上がり、背面は灰色で黄褐色の不明瞭な斑紋がある。比較的乾燥した場所の植物の枯枝ないし枯葉を利用して円網を張り、植物上に占座する。生活史は不明だが、年数回発生するものと考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

風通しの良い乾燥した場所を好むと考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1981 年に母島産の個体に基づいて新種記載されて以来、わずかな確認例しかない。小笠原諸島からはほかに 3 種のアシナガクモ属のクモが記録されているが、いずれも広域分布種であり、本種のように生息地が局限されているのは稀な例である。

【関連文献】

Okuma, C., 1981; 小野展嗣（編）, 2009.

（執筆者：小野展嗣）



オガサワラゴミグモ

Cyclosa norihisai

クモ目
コガネグモ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長♀ 4～7mm、♂ 3～4mm。色彩、斑紋に変異がある。背甲は黄色に褐色の条斑がある個体から全体が黒褐色でわずかな黄斑があるものまで変化に富む。腹部背面は銀色の基調で後端中央に鈍い突起があり、その両脇も膨れる（♂では不明瞭）。8眼、3爪。樹間に垂直に円網を張り、粘着糸にかかった昆虫を捕食する。これまでに確認されている成虫の出現時期は3～5月および9～10月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

環境が良好な樹林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

同属のハマゴミグモが市街地から樹林に至る広範な場所で多数見られるのに対し、本種の生息地は植生が多様で比較的良好な環境に限られ、個体数も少ない。今後、両者の競合、および鳥類や爬虫類による本種に対する捕食の状況に注意する必要がある。

【関連文献】

Tanikawa, A., 1992; 小野展嗣 (編), 2009.



所蔵：国立科学博物館

(執筆：小野展嗣)

イオウシボグモ

Acantheis nipponicus

クモ目
シボグモ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長♂ 8～9mm。♀は不明である。背甲は黄褐色で放射状の条状暗斑があり、中窩は明瞭で長い。腹部は扁平で、暗灰色を呈し斑紋を欠く。上顎の前牙堤に3歯、後牙堤に5歯を備える。歩脚は体長の2倍以上の長さがあり爪は2本、触肢脛節に明瞭な突起を欠く。生態、生活史は不明だが、同科の他種から推測して狩猟性と考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林の地表および下草の上に生息するものと考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

同属の北限に分布する種であり（他種は東南アジアに分布）、南硫黄島固有と考えられることから、学術的な価値が高い。今後、植生に変化がないよう、またクモを捕食する外来の鳥類や爬虫類が新たに侵入しないよう見守る必要がある。

【関連文献】

Ono, H., 2008; 小野展嗣 (編), 2009.



所蔵：国立科学博物館

(執筆：小野展嗣)

エダイボグモ

Cladothela boninensis

クモ目
ワシグモ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長6～10mm。背甲、触肢および歩脚は一樣に赤褐色ないし濃赤褐色。腹部背面は淡黄褐色の地に数本の黒褐色の山型横斑があり、全体として黒白の横縞模様に見える。上顎の前牙堤に3～5歯を有する。8眼はほぼ同大で比較的大きく、後中眼は楕円形。♂の触肢脛節中央部に1本の巨大なとげを有する。2爪。狩猟性で網を張らず、地表や植物上を徘徊して獲物を捕らえる。成虫は6～8月に採集されている。食餌動物や生活史は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林、草原の地表および下草の上で見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

母島では確認されているが、父島では近年の確実な記録がない（ただし、他島にも生息している可能性がある）。グリーンアノールおよびオオヒキガエルの格好の食餌動物となり得るので、個体数の推移に注意を要する。

【関連文献】

Kamura, T., 1991; 小野展嗣 (編), 2009.



(執筆：小野展嗣)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名および配列は、石川 (2008) および小野 (2009) などを参考にして、評価者の見解に従った。

石川良輔 (編), 2008. 節足動物の多様性と系統. 裳華房. 516 pp.

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会. xvi + 738 pp.

【関連文献】

青木淳一, 2004. 小笠原のカニムシ類. In: 特別展図録・解説 東洋のガラパゴス小笠原 固有生物の魅力とその危機, pp. 70-71. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

Kamura, T., 1991. A revision of the genus *Cladothela* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta Arachnologica*, 40(2): 47-61.

Okuma, C., 1981. A new species of the genus *Tetragnatha* (Araneae: Tetragnathidae) from the Bonin Islands, Japan. *Esakia*, (17): 141-147.

Ono, H., 2008. Five new spiders of the families Dictynidae, Cybaeidae, Coelotidae and Ctenidae. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series A (Zoology)*, 34(3): 157-171.

Ono, H. & H. Saito, 2001. New species of the family Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum Series A (Zoology)*, 27(3): 159-203.

小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会. xvi + 738 pp.

Reddell, J. R. & J. C. Cokendolpher, 1995. Catalogue, bibliography, and generic revision of the order Scizomida (Arachnida). *Speleological Monographs of the Texas Memorial Museum*, 4: i-iii, 1-170.

Saito, H., 1982. Soil dwelling linyphiine and erigonine spiders from Ogasawara Islands, Japan. *Edaphologia*, 25/26: 33-39.

Sato, H., 1991. *Metagoniochernes tomiyamai*, a new pseudoscorpion (Chernetidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 46(10): 97-101.

Sekiguchi, K. & T. Yamasaki, 1972. A redescription of "*Trithyreus sawadae*" (Uropygi: Schizomidae) from the Bonin Islands. *Acta Arachnologica*, 24(2): 73-81.

Suzuki, S., 1974. Two new harvestmen from the Bonin Islands (Arachnida, Opiliones). *Journal of Science of the Hiroshima University, Series B, Division 1 (Zoology)*, 25: 129-136.

Suzuki, S., 1978. Three harvestmen (Arachnida, Opiliones) from the Bonin Islands. *Annotationes zoologicae Japonenses*, 51(3): 179-185.

Tanikawa, A., 1992. A revisional study of the Japanese spiders of the genus *Cyclosa* Menge (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnologica*, 41(1): 11-85.

鶴崎展巨, 2006. ムニンザトウムシ, ムニンセグロザトウムシ, ミナトザトウムシ. In: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 7 クモ形類・甲殻類等, pp. 70-71. 財団法人自然環境研究センター.

